

授業概要

科目名	臨床医学総論Ⅲ ①			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	38 回	時間数	75 時間 3 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年 通年
【授業の目的・ねらい】 これまで学んできた基礎的な医学的知識を応用しながら、病気の基礎、検査、診断、治療とそれに付随する医療機器を絡め、臨床工学技士の業務に必要な臨床医学的知識の修得を目的とする。							
【実務者経験】 臨床工学技士として、病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 臨床工学技士国家試験過去問を用い、クラス全体の習熟度を確認しながら実施していく。 前期で は、主に臨床工学技士に必要な基礎を中心に、後期は内科系～外科系の疾患を中心に実施。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・国家試験過去問が自らの力で解けるようになる。また、自ら説明できるようなる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	概論：生物学的基礎について理解できる						
2	概論：身体の支持と運動について理解できる						
3	概論：呼吸（解剖）について理解できる						
4	概論：循環（解剖）について理解できる						
5	概論：血液について理解できる						
6	概論：腎・泌尿器（解剖）について理解できる						
7	概論：消化と吸収について理解できる						
8	概論：内蔵機能の調節について理解できる						
9	概論：情報の受容と処理について理解できる						
10	概論：外部環境からの防御について理解できる						
11	概論：免疫・アレルギーについて理解できる						
12	概論：生殖・発生・老化について理解できる						
13	概論：エネルギー代謝について理解できる						
14	中間試験						
15	総論：内科学概論について理解できる						
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 臨床医学総論 第2版、篠原一彦 ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社 ・配布資料							
【準備学習・時間外学習】 ・国家試験の過去問題は自主的に取り組んでください ・事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 中間試験の評価を40点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							

科目名		臨床医学総論Ⅲ ②				授業の種類	講義	講師名				
授業回数	38	回	時間数	75	時間	3	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年	通年
【授業の目的・ねらい】 これまで学んできた基礎的な医学的知識を応用しながら、病気の基礎、検査、診断、治療とそれに付随する医療機器を絡め、臨床工学技士の業務に必要な臨床医学的知識の修得を目的とする。												
【実務者経験】 臨床工学技士として、病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 臨床工学技士国家試験過去問を用い、クラス全体の習熟度を確認しながら実施していく。 前期で は、主に臨床工学技士に必要な基礎を中心に、後期は内科系～外科系の疾患を中心に実施。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・国家試験過去問が自らの力で解けるようになる。また、自ら説明できるようなる。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
16	総論：外科学概論について理解できる											
17	総論：呼吸器系について理解できる											
18	総論：循環器系について理解できる											
19	総論：内分泌、代謝系について理解できる											
20	総論：神経系、筋肉疾患について理解できる											
21	総論：感染症について理解できる											
22	総論：腎臓、泌尿器、生殖器系について理解できる											
23	総論：消化器系について理解できる											
24	総論：血液系について理解できる											
25	総論：麻酔科学について理解できる											
26	総論：救急、集中治療医学について理解できる											
27	総論：免疫、移植について理解できる											
28	中間試験											
29	まとめ											
30	まとめ											
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 臨床医学総論 第2版、篠原一彦 ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社 ・配布資料												
【準備学習・時間外学習】 ・国家試験の過去問題は自主的に取り組んでください ・事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 中間試験の評価を40点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する												

科目名		臨床医学総論Ⅲ ③				授業の種類	講義	講師名				
授業回数	38	回	時間数	75	時間	3	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	3年	通年
【授業の目的・ねらい】 これまで学んできた基礎的な医学的知識を応用しながら、病気の基礎、検査、診断、治療とそれに付随する医療機器を絡め、臨床工学技士の業務に必要な臨床医学的知識の修得を目的とする。												
【実務者経験】 臨床工学技士として、病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 臨床工学技士国家試験過去問を用い、クラス全体の習熟度を確認しながら実施していく。 は、主に臨床工学技士に必要な基礎を中心に、後期は内科系～外科系の疾患を中心に実施。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・ 国家試験過去問が自らの力で解けるようになる。また、自ら説明できるようなる。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
31	まとめ											
32	まとめ											
33	まとめ											
34	まとめ											
35	まとめ											
36	まとめ											
37	まとめ											
38	まとめ											
39												
40												
41												
42												
43												
44												
45												
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 ・ 臨床工学講座 臨床医学総論 第2版、篠原一彦 ほか、医歯薬出版株式会社 ・ 臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社 ・ 配布資料												
【準備学習・時間外学習】 ・ 国家試験の過去問題は自主的に取り組んでください ・ 事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・ 病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 中間試験の評価を40点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する												